# 論文要約

| 論文名 | 航空機部品サプライ・チェーンの形成―日本における要因とプロセス― |
| --- | --- |
| 氏　名 | 田野　穂 |

2000（00）年代以降，日本の航空機・同部品産業の発展への期待が官民挙げて高まっている。その期待を背景に，各地における航空機・同部品産業振興が活発化している。そのなかには，発注側と受注側間の協調的な部品取引関係を基礎とするサプライ・チェーンの形成を目指す動きもある。しかし，部品取引関係ないしはサプライ・チェーンの形成についての研究は自動車・同部品産業を典型に十分な市場規模のある成熟した産業がほとんどである。そして，航空機・同部品産業のように市場規模が発展途上にある産業を取り上げた研究は不十分である。それでは発展途上にある日本における航空機部品サプライ・チェーンが形成した要因とはなにか。そのプロセスとはいかなるものか。これらが本論文の基礎にある問いである。本論文の各章の概要はつぎのとおりである。

第 1 章は，航空機部品サプライ・チェーンの形成の分析に必要な視点の導出を目指した部品取引関連の先行研究の検討である。そのうえで，代表的な研究対象である自動車・同部品産業を取り上げた研究の作業仮説と分析枠組みの特徴を検討した。つづけて，航空機産業の部品取引関係にかかわる先行研究をみた。そして，先行研究の検討から受注側による顧客管理の視点と発注側と受注側のみならず公的な振興機関の関与も加えた視点が重要になると指摘した。

第 2 章は，2000（00）年代以降に日本の航空機部品サプライ・チェーンが再編・拡大した背景についての検討である。その検討では三菱重工業，川崎重工業，富士重工業などの主要機体メーカーの事業展開に着目した。そして戦後から現代に至るまでの変遷を詳述した。その結果，近年の民需拡大がサプライ・チェーンの再編・拡大を促し，同時に中小企業の参入機会を生み出したことを明らかにした。なお，補章では冷戦終結後におけるアメリカとヨーロッパ主要国の産業再編を検討した。その検討から冷戦終結後の海外主要メーカーによる効率性の追求が日本の航空機・同部品産業の発展の背景にあることを明らかにした。

第 3 章は，航空機部品産業への参入を目指す中小企業の意図（企業内部要因）についての論考である。そのため，まずは中小企業による航空機部品産業への参入を阻害する要因を確認した。その阻害要因とは，品質の安定化を第一にした生産システムに起因した厳しい品質・生産管理体制の確立の要求，その生産システムに起因した参入機会の少なさ，利益の短期的獲得の難しさの 3 つである。こうしたことをふまえて，2010 年 11～12 月にかけて実施した参入を目指している中小企業 8 社へのインタビュー調査の結果を分析した。その結果，中小企業による航空機部品産業への参入活動がその場凌ぎの選択というよりも，

長期的な展望に起因する積極的に選択した結果によることを明らかにした。

第 4 章は，発注側，受注側，振興機関の 3 者間関係によるサプライ・チェーンの形成プロセスについての論考である。その論考にあたってはまず日本各地における航空機・同部品産業振興の動向を確認した。そのうえで航空機部品サプライ・チェーンの形成を目指す事例として近畿地域に着目した。その事例から支援事業策定前の受注側による発注側の事業・購買の方針をふまえた産業振興の標榜が発注側，受注側，振興機関の 3 者間の双方向的な関係の形成につながったことを発見した。くわえて，発注側が信頼する専門家（企業 OB）と受注側間の双方向的な関係が，受注側の生産・品質管理の確立やその管理を支える経営方針の精緻化を促したことも明らかにした。

終章では，本論文からの示唆と今後の展望について言及した。そして，航空機部品サプライ・チェーンが発注側と受注側間の経済的な結び付きのみならず社会的な結び付きをもとに形成されたと結論づけた。そのことをふまえて，産業創出・発展の評価には定量的な側面のみならず定性的な側面の変化への理解が大切になると論じた。